

1. 多摩のイノベーション創出拠点の形成に向けた取組方針（令和2年2月）

○基本的な考え方

「未来の東京」戦略ビジョン等を踏まえて、多摩地域の拠点地区において、産業政策とも連携を図りながら、イノベーション創出環境の整備を図る新たなまちづくり（「イノベーション創出まちづくり」）に取り組み、個性的で魅力あふれる拠点の形成を図っていく。

○具体的な取組み

- ・「イノベーション創出まちづくり」モデル事業
- ・情報共有・意見交換等を行う体制づくり（多摩まちづくり推進連絡会議の設置）
- ・多摩の新たな拠点整備計画の策定

2. イノベーション創出まちづくりモデル事業（令和2年5月） ※市の検討等を支援

○モデル事業の目的

- ・「イノベーション創出まちづくり」の促進を図るため、モデル事業を実施し、他の地区にも取組を促す。
- ・モデル事業を通じて、「イノベーション創出まちづくり」の課題等を洗い出し、新たな拠点整備計画の策定やその後の施策展開につなげていく。

○モデル事業の実施とスケジュール

- ・都は、地元自治体が主体となって「イノベーション創出まちづくり」に取り組む意欲のある地区を公募により選定し、まちづくりの検討や計画策定等に対して、技術的・財政的な支援を実施

令和2年5月 : 地区の公募

令和2年7月 : 地区の選定（4地区：多摩市、府中市、日野市、八王子市）

令和2～3年度 : まちづくりの検討・計画策定等（都が支援）

令和4年度～ : 多摩の新たな拠点整備計画の検討

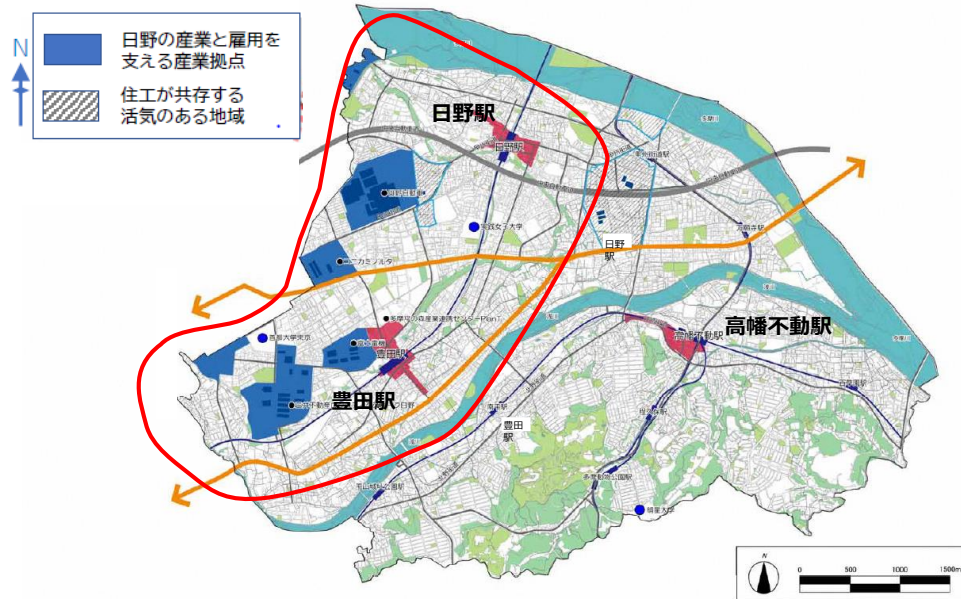
1 多摩市 尾根幹線沿道拠点地区 (約38ha)



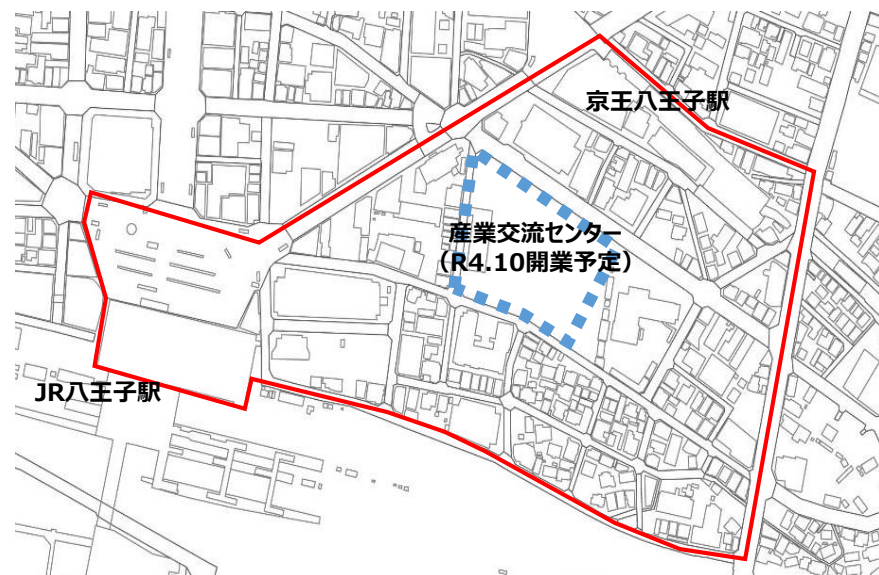
2 府中市 府中基地跡地留保地周辺地区 (約39ha)



3 日野市 日野北西部イノベーション拠点地区 (約115ha)



4 八王子市 八王子市旭町・明神町地区 (約12ha)



モデル地区①：多摩市（尾根幹線沿道地区）

➤尾根幹線沿道で創出される大規模敷地において、イノベーション創出拠点を形成していくために、「**公民学連携プラットフォーム**による**エリアごとの将来像の検討**」、「**市有地**を活用した**地域・民間ニーズの実証方法**の検討」を推進

主な資源	<ul style="list-style-type: none"> ・広域交通網の充実（尾根幹線、圏央道、リニア等） ・大学、研究機関、ニッチトップ企業が多数立地 ・大規模敷地の創出
主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・超高齢化 ・起伏のある地形、脆弱な公共交通 ・沿道の土地利用規制

モデル事業における検討の取組	<ul style="list-style-type: none"> ▶NT再生会議：学識、都、市、UR、JKK、鉄道事業者、市民委員 ▶シンポジウム：NT再生会議の内容、市民意見・アイデアを共有 ▶ヒアリング等：民間企業等（創出用地の活用アイデア等）
-----------------------	---

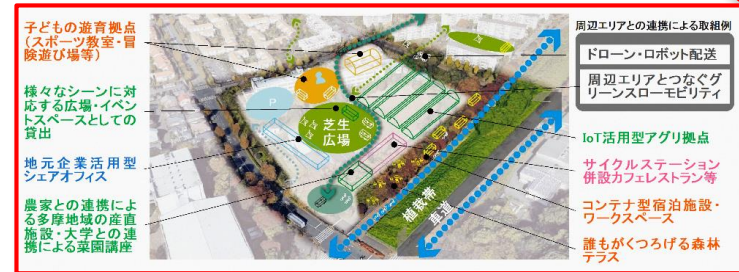
イノベ創出まちづくりの基本方針	<p>【多摩ニュータウンにおける新たな付加価値を創造する場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶便利で楽しい暮らしを支える機能の充実 ▶産業・業務の集積 ▶職住近接を実現する場の形成 ▶体感型の賑わい・魅力発信 ▶多様な主体が連携・融合したイノベーション環境 ▶あらゆる場とヒト・モノ・コトをつなぐ次世代交通モードへの対応
------------------------	---

まちづくりの具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶公民学連携の対話の場となるプラットフォームの構築・新たな導入機能のアイデア出し 例) データセンター+研究所・産業施設での産業イノベーション施設等 ▶学校跡地を地域・民間ニーズの実証フィールドとして先行活用
-----------------------	---

【尾根幹線沿道のエリアごとの整理】



【実証フィールドにおける先行活用のイメージ例】



【事業化までをつなぐ短期活用のイメージ】



【暫定利用A】
尾根幹線沿道での既存緑を活かしたスポーツサイクリスト同士の交流促進
尾根幹線沿道を利用するスポーツサイクリストの求める機能・設法等を調査

【暫定利用B】
グラウンドの暫定利用によるスポーツ振興を契機とした尾根幹線沿道のスポーツ需要の醸成
子ども向けスポーツの安全な指導やイベントを開催し、参加者及び近隣住民へのモニター調査・アンケート調査を実施することで、尾根幹線沿道におけるスポーツ関連施設の可能性を把握

➤ 府中基地跡地留保地周辺地区におけるイノベーション創出に向け、**公民学連携体制づくり**、**まちづくりポイント制度（地域通貨）**の導入による地域交流の活性化、**エリアマネジメント**を通じた公共空間の有効活用などを検討

主な資源 (地域資源)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術分野（府中市美術館・府中の森芸術劇場） ・健康・スポーツ分野（府中市生涯学習センター） ・緑の空間分野（都立府中の森公園） ・先端技術や知識を有する企業・大学等
主な課題 (目指す姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・留保地における魅力的な拠点整備の実現 ・当該地区と中心市街地のまちづくりの連携 ・魅力的な地域資源の更なる活用

モデル事業 における 検討の取組	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ワークショップ：市民（高校生含む） ▶ ヒアリング等：地元大学、民間企業、公園管理者、先進地区等
--------------------------------------	---

イノベーション創出 まちづくりの 基本方針	<p>【イノベーション創出により地域課題を解決し 地域の生活の質の向上と持続可能な社会を実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域活力の回復・増進 ▶ 魅力ある地域特性の創造 ▶ 環境の変化に対応した持続可能なまちの仕組み
--	---

まちづくりの 具体的な 取組検討 内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 公民学連携体制づくり（大学との協働による創業支援、カーボンニュートラルの取組等） ▶ まちづくりポイント制度の導入による地域交流活性化 ▶ エリアマネジメントを通じた公共空間の有効活用 ▶ 隣接する都立公園等との連携 ▶ スマート街路灯の導入（5Gの基盤整備、人流データの活用）
--	---

【新たな取組が生み出す将来像】



【国有地処分に向けたまちづくり準備検討委員会】

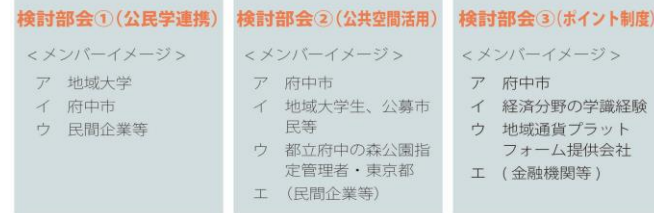
(仮称) 府中基地跡地留保地周辺地区まちづくり準備検討委員会



< 準備検討委員会メンバーイメージ >

- ア まちづくり分野の学識経験者（まちづくり全体、エリアマネジメント、公民学連携）
- イ 地域大学
- ウ まちづくり府中
- エ 府中市

(仮称) イノベーション創出まちづくり事務局
 (準備段階では府中市が事務局の役割を担う)



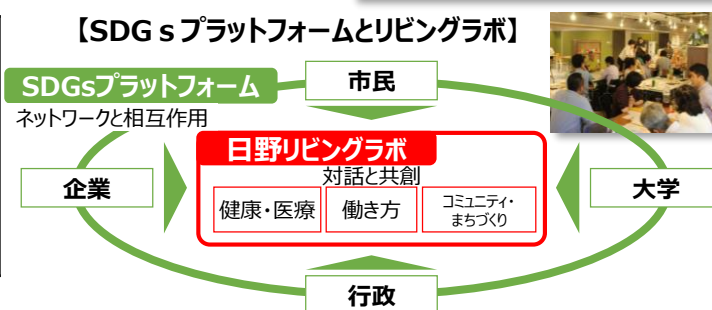
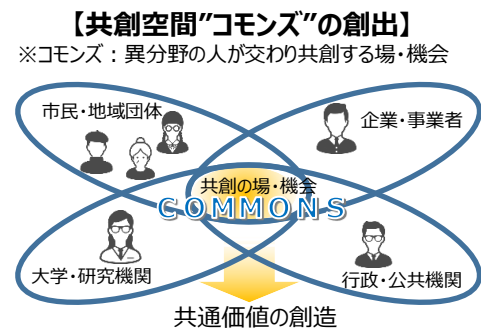
▶ 工場跡地など今後の大規模土地利用転換時にイノベーションを積極導入していくため、大学・企業・市民を巻き込んだプラットフォーム等を整備し、地域課題の解決に向けた様々な社会実証の実施、共創空間「コモンズ」形成等を検討

主な資源	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発拠点、大学が集積 ・創業支援機関、インキュベーション施設が立地 ・民間の大規模用地が複数存在
主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・財政非常事態宣言（2020.2：福祉コストの増大等） ・相次ぐ工場の撤退、低未利用地の発生 ・ベンチャー、IT関連企業の不在

モデル事業における検討の取組	<ul style="list-style-type: none"> ▶ プラットフォーム等：都立大学・企業との連携、対話の場の設置、社会課題の解決に向けた実証の試行 ▶ ヒアリング等：市内外の主要企業、大学等 ▶ 行政間連携：八王子市とイノベーション連携
-----------------------	--

イノベーション創出まちづくりの基本方針	<p>【工場の「ものづくり」から共創による「コトづくり」、「価値づくり」へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 持続可能な地域づくりやライフスタイルの選択 ▶ 生活者の視点に根差した実証・新たなサービス創出 ▶ 生活の場と連続した実験都市 等
----------------------------	--

まちづくりの具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 創業支援施設等を活用した共創空間「コモンズ」の形成 ▶ 共創まちづくり提案制度等の検討 ▶ スマートメーターによる要介護者の見守り（実証実験） ▶ ビーコン、アプリ、地域ポイントによる多世代交流促進（実証実験） ▶ 移動販売車による出張栄養講座（実証実験）
-----------------------	--



➤ 都立多摩産業交流センターの機能を最大発揮するため、隣接地で検討中の再開発事業における産業支援機能、中心市街地の魅力向上に向けた都市型広場の設置、鉄道駅間の連続性や中心市街地の回遊を促すウォーカブルなまちづくりを検討

主な資源	<ul style="list-style-type: none"> 産業交流センター「愛称：東京たま未来メッセ」（産労局R4.10開業） 大学、研究機関、企業が多数立地
主な課題	<ul style="list-style-type: none"> 製造業者数の減少 オープンスペースの不足 J R八王子駅と京王八王子駅間の歩行者交通の混雑

モデル事業における検討の取組	<ul style="list-style-type: none"> ▶ヒアリング等：産業支援機関・交通事業者・学識・金融機関 等 ▶公民学連携：まちづくり懇談会等（課題・アイデアを抽出） ▶庁内連携：関連部署との連携（産業部門 等）
----------------	--

イノベ創出まちづくりの基本方針	<p>【新たな価値を創出する 賑わい・憩い・交流のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶交流：産業交流センターの整備効果を高める産業支援 ▶憩い：中心市街地の魅力を向上させる都市型広場 ▶賑わい：ウォーカブルなまちづくりを先導する交通環境
-----------------	--

まちづくりの具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶再開発事業におけるインキュベーション施設等の導入 ▶公民共創オープンイノベーション促進の「対話の場」の導入 ▶イノベーション創出まちづくりに向けた共創プラットフォーム等の体制づくり（都市型広場の活用検討，マネジメント組織の組成 等） ▶ウォーカブルなまちづくりの推進（無電柱化事業、駐車場地域ルール導入等）
----------------	---

【産業交流センターを中心とした歩行者動線の連続化】



【都市型広場の活用検討組織(案)】
(共創プラットフォームの初期期)

1. 多摩地域の課題・ニーズに応じたイノベーション創出の方向性

- 人口減少など地域課題が多く、大規模敷地の創出が見込まれる多摩地域でイノベーションを創出し、産業として定着させていくためには、地域の課題や市場のニーズを把握し、その解決策を見出していく**課題解決型のイノベーション**が必要

2. 公民学連携の仕組みづくり

- 課題解決型のイノベーションを創出するためには、地域課題や市場ニーズを把握・共有していくための**公民学連携のプラットフォーム**など**多様な主体が参加する場**を設けることが必要

3. ハード・ソフト両面からのまちづくり

- イノベーション創出まちづくりにおいては、**産業振興部門等と連携**し創業支援プログラム等の即効性の高い取組を既存ストックで先行実施しつつ、土地利用転換等のまちづくりを進めるなど**ハード・ソフト両面からの取組**が必要

4. 広域連携への発展

- モデル事業のうち**八王子市**と**日野市**では、イノベーション創出の取組を広く展開させていくために**行政間連携**がはじまりつつあり、今後、道路交通ネットワークの整備などにより、さらに多摩地域全域を見据えた**広域連携**の実現を期待

5. 機運醸成に向けた多摩まちづくり推進連絡会議の活用

- 多摩イノベーション交流ゾーンの形成等に向け、多摩地域のまちづくりについて情報共有・意見交換をする場として、多摩地域の関連市町で構成される**多摩まちづくり推進連絡会議**を積極的に活用